

第27期報告書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)



不二サッシ株式会社

株主の皆様へ



株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
また、平素より格別のご支援ご愛顧を賜り、誠に有り難うございます。
私ども不二サッシグループは、アルミサッシのパイオニアとして、常にビル、住宅における快適な環境づくりを提案してまいりました。
現在、当社グループは、事業収益力の向上を図るため、平成18年度を初年度とする「中期経営4ヵ年計画」を推進しております。
このたび、当社の第27期（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）が終了いたしましたので、事業の概況をご報告申し上げます。

当期の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、堅調な企業業績を背景に設備投資の増加など緩やかな景気の拡大傾向が持続するものと期待されていましたが、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融不安から株価は大きく下落し、為替は急激な円高ドル安となるなど、後半は景気減速感が強まりました。また、原油等原材料価格の高騰も先行きに対する不透明感を増しております。

一方、アルミ建材業界におきましては、アルミ地金等原材料価格の高止まりが続く中、改正建築基準法施行の影響もあり、建築着工の大幅遅延や新設住宅着工戸数が大幅に減少するなど依然として厳しい状況にあります。

このような経営環境のもと、当社グループは、新商品などの販売促進に努めるとともに、リニューアル事業への取り組み強化や形材外販事業など非サッシ事業分野の拡大に注力してまいりました。

また、コストダウンおよび利益確保に重点を置いた経営にグループ全体を挙げて取り組む一方、原材料価格の高騰分に対する価格改定の浸透にも尽力してまいりました。現在、当社グループは、「中期経営4ヵ年計画（平成18年度～21年度）」を推進していく中で、事業構造の見直し、グループ再編等を

行い、事業収益力の向上を目指しております。

グループ再編の一環として、グループの資材部門を統合し、サッシ事業以外の市場への売上拡大と資材部門の経営効率化を通じて、収益拡大を図るべく、資材統合新会社「不二ライトメタル株式会社」を平成19年10月1日に発足させました。また、有利子負債の削減、株主資本の充実等の財務上の目標も前倒しで達成いたしました。

こうした中、主力事業であるビル建材事業は、昨年6月に施行された改正建築基準法の影響でマンション等ビル建築の大幅な着工遅延など逆風の中、懸命な営業努力の結果、ほぼ前期なみを確保いたしました。しかしながら、形材外販事業においては、上期のアルミ地金相場の先安感から買い控えの動きが広がり受注が減少したことに加え、改正建築基準法施行による着工遅れの影響で受注が更に減少したことなどにより売上、利益共に前期を下回りました。この形材外販事業の大幅な物量減が生産全体のコスト高を招き収益を圧迫したうえ、下期に入り一服感のあったアルミ地金価格も1月以降は再度高値に急転するなど収益減少の要因となりました。

この結果、連結売上高は1,263億7千3百万円（前期比2.0%減）となり、

連結営業利益は16億5千2百万円（前期比38.1%減）、連結経常利益は9億円（前期比50.1%減）となりました。また、連結当期純利益は20億7千3百万円（前期比76.3%減）になり、残念ながら売上高、利益共に前期比減収減益の不本意な結果となりました。

対処すべき課題

内外の諸情勢からみて、今後とも厳しい企業環境が予想されますが、当社グループは、引き続き契約適正化の推進や更なる合理化・総コストの削減などを図る一方、顧客ニーズ・市場動向に合わせた新商品の開発による販売促進に注力してまいります。また、世界共通の重要課題の一つである地球温暖化対策の有効手段としてCO₂削減に効果の高い複層ガラス入りアルミサッシへの改修などリニューアル市場の開拓にも力を注いでいます。また、形材外販事業については、新たな用途先の開拓や高付加価値のアルミ加工品・アルミ精密加工品に注力するなど第二のコア事業に育ててまいります。今後とも、グループ全体を挙げて売上増強、収益向上を強力に推進してまいります。

また、当社グループは、「中期経営4ヵ年計画（平成18年度～21年度）」を推進していく中で、事業構造の見直し、グループの再編等を行い、事業収益力

の向上を目指しておりますが、計画2年目の今年度は、有利子負債の削減ならびに株主資本の充実等の財務上の目標を前倒しで達成するとともに、グループ再編の一環として、グループの資材部門を統合し、サッシ事業以外の市場への売上拡大と資材部門の経営効率化を通じて、収益拡大を図るべく、資材統合新会社「不二ライトメタル株式会社」を平成19年10月1日に発足させました。

引き続き、「中期経営4ヵ年計画」の達成に向けて、安定的な収益基盤の確立、強固な財務体質の構築等を目指し、営業力の強化や経営管理体制の変革などグループ経営の見地に立った施策を積極的に展開してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年6月

取締役社長

嵯峨明

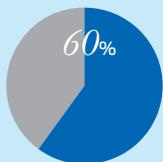
ビル建材事業

BUILDING

● 主要製品名

カーテンウォール、ビル用サッシ・ドア、中低層用サッシ・ドア、改装用サッシ等

売上高構成比



連結売上高推移

(単位:億円)



市場環境と業績

主力のビル建材事業においては、受注競争の激化やアルミ地金等原材料価格の高騰という悪条件の中、好調だった前期受注分が寄与し、順調に推移しておりましたが、昨年6月に施行された改正建築基準法の影響で当期受注、当期売上分の減少や完成時期の期ずれが生じ、逆風にさらされたものの、懸命な営業努力を重ねた結果、ほぼ前期なみを確保いたしました。

● 事業トピックス



① 高層マンション向け網戸収納サッシ「FNS-100AT SN型」

超高層マンション向け高性能サッシ「FNS-100シリーズ」に、眺望性に優れた商品「FNS-100AT SN型」を発売しました。視界を遮っていた網戸をサッシ枠内に収納させることで眺望性を高め、窓を閉めた時に網戸の存在を感じさせないスッキリとしたデザインを実現しました。さらに、断熱効果の高い空気層12mmの複層ガラスに対応可能なガラス溝幅を設定しました。オプションとして、障子閉鎖速度減衰機構を設定し、障子開閉時の指挟みにも配慮した商品です。



② マンションバルコニー向け「ユニット型ガラス手摺」

(株)長谷工コーポレーションと共同で、マンションバルコニー向けに「ユニット型ガラス手摺」を開発し、発売しました。この手摺は生産工場ではアルミフレームとガラスをユニット化し、現場でのガラス施工、シール施工を省力化することで施工時間の短縮と品質の安定を実現しました。さらに、ガラスをユニット化したことにより、従来品よりガラス交換が容易となり、メンテナンス性と大規模改修等におけるリフォーム性を高めた商品です。

③ 次世代型サッシ改修工法「RE工法」

次世代型の新しいサッシ改修工法として「RE工法」を開発し、発売しました。当社の基幹商品であるFNS-70シリーズ全てのバリエーションとの組み合わせにより、安定した高い性能での対応を可能にしました。70mm枠のアルミサッシでは最高水準の断熱性能が得られ、さらに、従来のカバー工法と比較して開口を大きくすることを可能にしました。下枠の段差を解消したバリアフリーのフラットサッシ枠を標準設定しているため、次世代のユニバーサルデザインのサッシとして、集合住宅から公共施設まで幅広い物件に対応できる改修工法の商品です。

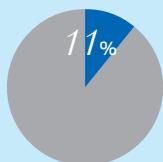
住宅建材事業

HOUSING

● 主要製品名

住宅用サッシ、玄関引戸・ドア、室内建具、エクステリア製品等

売上高構成比



連結売上高推移

(単位:億円)



● 事業トピックス



① 集合住宅向け折りたたみ式フラワーボックス

かねてから生産しております集合住宅向けフラワーボックス(エアコン室外機置場兼用)は、組立完成品で納品しておりましたが、この度、建設現場でも簡単に組み立てられる折りたたみ式にモデルチェンジを行い、建設現場での保管場所問題の解消と輸送コストの低減、施工性の向上を図り、トータルでのコストリダクションに成功しました。



② 戸建住宅向けビューウィンドウ

広々とした空間を演出し、室内と室外の一体感を実現するために、大きなF i x 窓と片引き窓を組み合わせたビューウィンドウを開発しました。このビューウィンドウは、大きなF i x 部と下枠をフラットにしたバリアフリー構造の片引き部により、室内外空間の一体感を演出する開放的な開口部として充分満足いただけるサッシです。



市場環境と業績

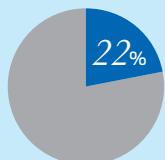
住宅建材事業においては、ハウスメーカー等直需先への営業強化を図ってまいりましたが、改正建築基準法施行の影響による、新設住宅着工戸数激減の影響を大きく受けたことに加え、大型倒産による不良債権の発生により営業損失の止むなきに至りました。

形材外販事業

MATERIAL

● 主要製品名
アルミ形材、アルミ精密加工品

売上高構成比



連結売上高推移



● 事業トピックス



市場環境と業績

形材外販事業においては、改正建築基準法施行の影響による受注減や、先安感を見込んだ買い控えなどにより前期に比べ大幅な減収減益となりました。また、一部アルミ加工品の終息などによる受注減も収益悪化の要因になり、営業損失の止むなきに至りました。

形材外販事業におきましては、当社グループの不ニライトメタル㈱を中核としたグループ内資材事業の統合を行い、資材部門の経営効率化を進めてまいりました。

当事業はアルミ合金種類・加工分野の拡大、及び次世代耐熱マグネシウム合金の産学協同事業に取り組むなどして拡大を図り、非サッシ事業の売上収益拡大を目指しております。

- 平成19年10月1日付 不ニサッシ㈱千葉工場における鋳造、押出、表面処理事業の全てを会社分割(吸収分割)にて不ニライトメタル㈱(10月1日付九州不ニサッシ㈱商号変更)に移管・集約いたしました。
- 平成20年4月1日付 不二電化㈱の表面処理事業を不ニライトメタル㈱に営業譲渡し、表面処理事業を移管・集約いたしました。

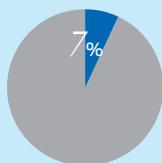
その他事業

OTHERS

● 主要製品名

産業廃棄物処理プラント、産業廃棄物処理、運送、各種金属の表面処理、不動産事業等

売上高構成比



連結売上高推移



● 事業トピックス



市場環境と業績

その他事業には、環境事業・産業廃棄物処理業・運送業等ありますが、中でも産業廃棄物処理業が順調に推移したことなどから売上高は前期比微減であったものの、営業利益は前期比17.8%増と大幅な増益となりました。

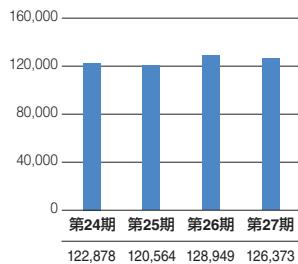
環境事業部におきましては、公共施設を主体として都市ごみ焼却施設の飛灰処理設備や粗大ゴミ処理・リサイクル設備及びダイオキシン分解装置等の設計・製作・工事を行っており、特に飛灰処理設備実績は、全国350ヶ所以上となりました。

昨年度、新たな市場として小型焼却施設の飛灰処理設備向け「ヴァレンミキサー(混練機)」を開発し、6施設へ納入することが出来ました。また、都市ごみ(資源)を燃料とするバイオマス発電関連設備及び溶融前処理設備の分野へも参画し、事業の拡大を図っております。

財務ハイライト (連結)

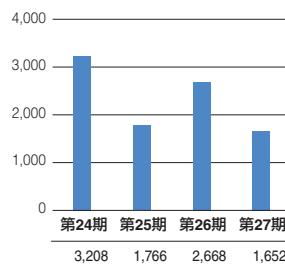
売上高

(単位: 百万円)



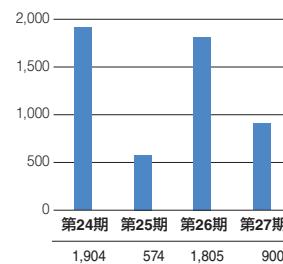
営業利益

(単位: 百万円)



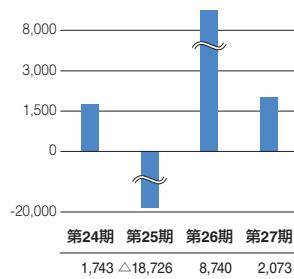
経常利益

(単位: 百万円)



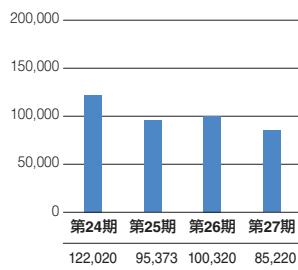
当期純損益

(単位: 百万円)



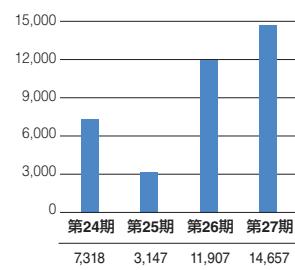
総資産

(単位: 百万円)



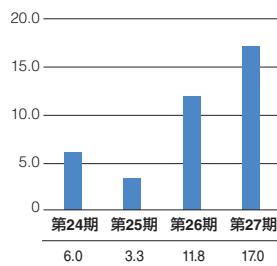
純資産

(単位: 百万円)



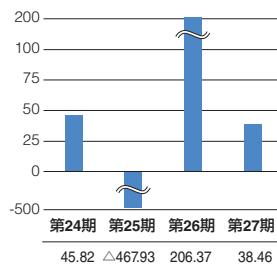
自己資本比率

(単位: %)



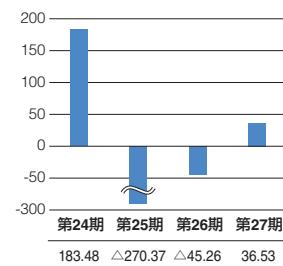
1株当たり当期純損益

(単位: 円)



1株当たり純資産

(単位: 円)



連結決算の概要

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (平成20年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成19年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	51,892	63,476
現金及び預金	6,448	11,976
受取手形及び売掛金	25,711	30,043
たな卸資産	17,185	18,839
繰延税金資産	131	87
その他	3,170	3,326
貸倒引当金	△ 755	△ 797
固定資産	33,328	36,843
有形固定資産	28,763	30,657
建物及び構築物	10,115	10,261
機械装置及び運搬具	3,986	4,109
土地	13,419	14,620
その他	1,201	1,666
無形固定資産	343	320
投資その他の資産	4,221	5,865
投資有価証券	2,101	3,228
長期貸付金	234	300
繰延税金資産	44	427
その他	2,923	2,760
貸倒引当金	△ 1,083	△ 850
資産合計	85,220	100,320

科目	当連結会計年度 (平成20年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成19年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	56,120	70,907
支払手形及び買掛金	22,612	28,081
短期借入金	21,517	31,179
未払法人税等	195	235
前受金	6,193	6,030
賞与引当金	606	613
役員賞与引当金	13	10
工事損失引当金	116	76
その他	4,863	4,680
固定負債	14,442	17,505
新株予約権付社債	—	1,600
長期借入金	2,417	4,244
繰延税金負債	80	389
再評価に係る繰延税金負債	622	592
退職給付引当金	10,326	9,466
負ののれん	33	46
その他	962	1,166
負債合計	70,563	88,412
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,709	1,102
資本剰余金	814	220
利益剰余金	11,031	8,951
自己株式	△ 6	△ 5
株主資本合計	13,549	10,269
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△ 31	595
土地再評価差額金	1,685	1,616
為替換算調整勘定	△ 677	△ 692
評価・換算差額等合計	977	1,519
少数株主持分	130	118
純資産合計	14,657	11,907
負債純資産合計	85,220	100,320

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
	売上高	126,373
売上原価	109,518	110,231
売上総利益	16,854	18,718
販売費及び一般管理費	15,201	16,050
営業利益	1,652	2,668
営業外収益	509	517
受取利息及び配当金	87	89
負ののれん償却額	31	29
保険配当金	129	127
その他	260	270
営業外費用	1,260	1,380
支払利息	1,050	1,150
手形売却損	121	111
その他	88	118
経常利益	900	1,805
特別利益	3,093	9,726
固定資産売却益	2,654	9,540
その他	438	185
特別損失	1,344	2,589
固定資産売却除却損	540	808
減損損失	240	533
その他	562	1,247
税金等調整前当期純利益	2,650	8,942
法人税、住民税及び事業税	235	261
法人税等調整額	334	△ 68
少数株主利益	7	9
当期純利益	2,073	8,740

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

当連結会計年度 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成19年3月31日 残高	1,102	220	8,951	△ 5	10,269
連結会計年度中の変動額					
新株予約権付社債の新株予約権の行使による新株の発行	606	593			1,200
当期純利益			2,073		2,073
自己株式の取得				△ 1	△ 1
土地再評価差額金の取崩			7		7
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	606	593	2,080	△ 1	3,279
平成20年3月31日 残高	1,709	814	11,031	△ 6	13,549

	評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	その他有 価証券評 価差額金	土地 再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日 残高	595	1,616	△ 692	1,519	118	11,907
連結会計年度中の変動額						
新株予約権付社債の新株予約権の行使による新株の発行						1,200
当期純利益						2,073
自己株式の取得						△ 1
土地再評価差額金の取崩						7
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	△ 626	69	15	△ 541	12	△ 529
連結会計年度中の変動額合計	△ 626	69	15	△ 541	12	2,749
平成20年3月31日 残高	△ 31	1,685	△ 677	977	130	14,657

単体決算の概要

貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	(平成20年3月31日現在)	(平成19年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	26,669	37,189
固定資産	31,595	31,850
有形固定資産	16,546	18,719
無形固定資産	115	114
投資その他の資産	14,934	13,015
資産合計	58,264	69,040
負債の部		
流動負債	36,972	49,439
固定負債	7,665	9,859
負債合計	44,638	59,298
純資産の部		
資本金	1,709	1,102
資本剰余金	791	198
利益剰余金	11,233	8,015
自己株式	△ 6	△ 5
株主資本合計	13,727	9,311
評価・換算差額等	△ 101	429
純資産合計	13,626	9,741
負債純資産合計	58,264	69,040

損益計算書

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	(平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	(平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
売上高	75,749	80,563
営業費用	74,391	79,273
営業利益	1,357	1,289
営業外収益	729	693
営業外費用	1,126	1,151
経常利益	961	832
特別利益	3,199	9,485
特別損失	836	2,418
税引前当期純利益	3,324	7,899
税金費用	106	△ 115
当期純利益	3,217	8,015

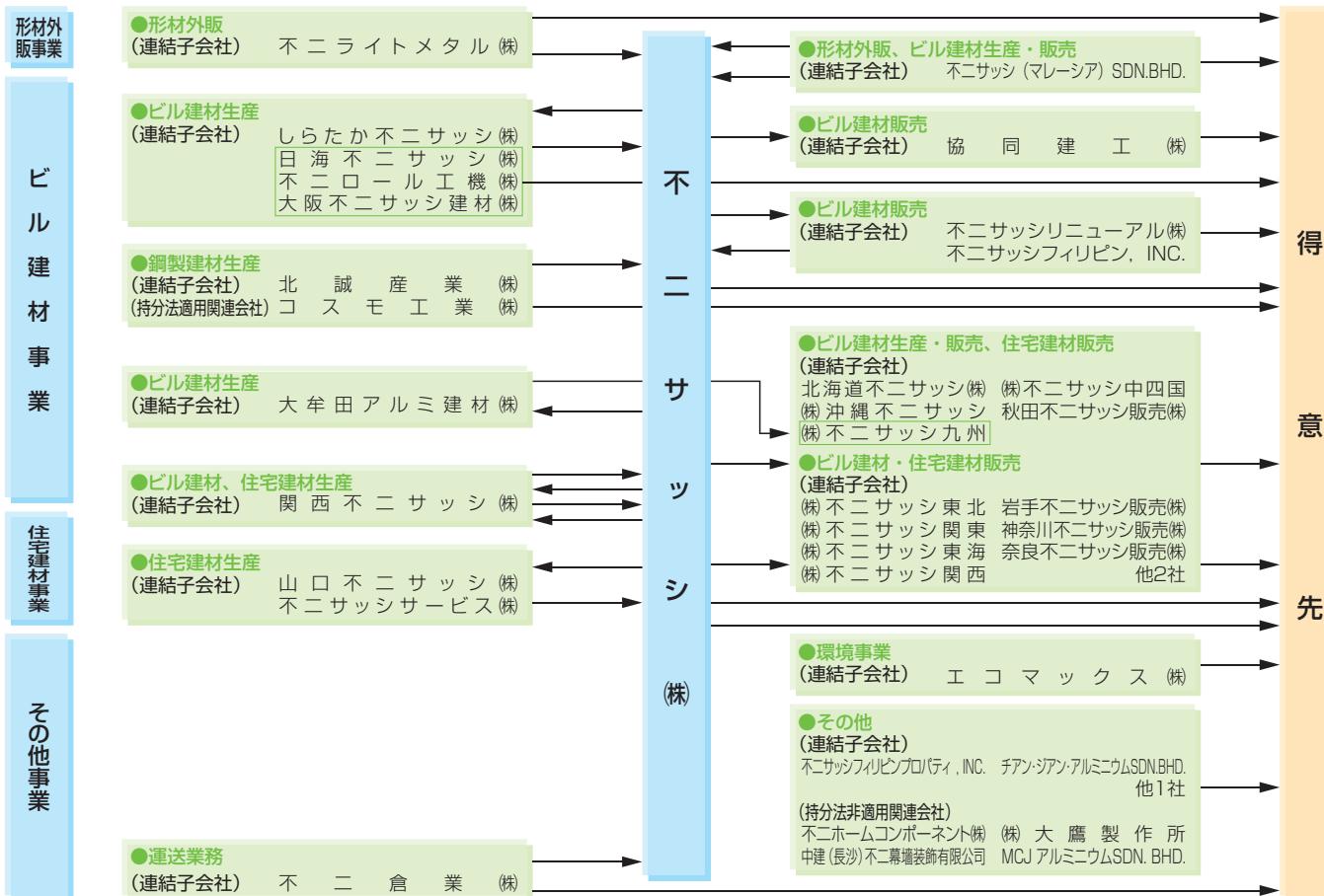
株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

当事業年度 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

	株主資本							評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計					
平成19年3月31日 残高	1,102	198	198	8,015	8,015	△ 5	9,311	429	429	9,741
事業年度中の変動額										
新株予約権付社債の新株予約権 の行使による新株の発行	606	593	593				1,200			1,200
当期純利益				3,217	3,217		3,217			3,217
自己株式取得						△ 1	△ 1			△ 1
株主資本以外の項目の事業年度 中の変動額 (純額)								△ 531	△ 531	△ 531
事業年度中の変動額合計	606	593	593	3,217	3,217	△ 1	4,416	△ 531	△ 531	3,885
平成20年3月31日 残高	1,709	791	791	11,233	11,233	△ 6	13,727	△ 101	△ 101	13,626

不二サッシグループ概要図



主な営業拠点

- 本 社 〒212-0058 神奈川県川崎市幸区鹿島田890-12 (044) 520-0034
- 東京本部 〒141-0032 東京都品川区大崎5-6-2 (03) 5745-1204
- 千葉工場 〒290-0067 千葉県市原市八幡海岸通13 (0436) 41-3131
- 大阪工場 〒569-0062 大阪府高槻市下田部町2-55-1 (072) 661-6301
- 北海道不二サッシ(株) 〒060-0061 北海道札幌市中央区南一条西12-4-89 (011) 261-8284
- 東北支店 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2-16-10 (022) 222-4134
- 関東支店 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-20-3 (048) 829-2751
- 東京支店 〒141-0032 東京都品川区大崎5-6-2 (03) 5745-1250

- 横浜支店 〒220-8116 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1-1 (045) 210-9080
- 名古屋支店 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-2-25 (052) 582-7511
- 日海不二サッシ(株) 〒920-0352 石川県金沢市観音堂町へー41-4 (076) 267-1231
- 大阪支店 〒541-0047 大阪府大阪市中央区淡路町3-5-13 (06) 4706-4134
- 中四国支店 〒733-0001 広島県広島市西区大芝2-7-32 (082) 509-2234
- (株) 不二サッシ九州 〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名2-4-22 (092) 741-6031
- シンガポール支店 40 Siglap Drive, Singapore 456165 65-6848-6470

不二サッシリニューアル株式会社

Fujisash Renewal Co., Ltd.

所在地：神奈川県川崎市高津区坂戸1-13-1

創立：昭和38年（1963年）9月

代表者：代表取締役 宮城章吾

従業員：120名

資本金：2,600万円

売上高：51億円

事業内容：アルミサッシの取替工事

売上高・経常利益の推移 (単位:千円)



(本社工場)



(リニューアル施工事例)



(東京本部正面)



不二サッシリニューアル(株)は建築物の『再生-Renewal』をテーマに、リニューアル技術・知識を駆使し建築物の「居住性」「デザイン」「機能」を向上させるリニューアル事業を推進しています。

当社は、1963年（昭和38年）にスチール及びステンレスサッシメーカー、川崎サッシ工業(株)として設立されました。

1972年には不二金属工業(株)と合併し、従来商品だけではなく、アルミサッシの製作にも着手し、更に取替サッシの製作・施工を始め、現在の会社の礎を築きました。1975年には社名を神奈川不二サッシ(株)に変更、1984年には不二新装(株)に変更しました。1995年には東京不二ホームサービス(株)と合併し、社名を不二サッシリニューアル(株)に変更、1997年には不二サッシ(株)改装部と統合し、現在に至っております。

業務内容は、リニューアルにかかわる企画・提案から製作、施工に至る全ての業務を行っております。既存のスチールサッシ・アルミサッシの取替工事、カーテンウォール・外壁アルミパネルの取替工事、手摺り取替工事、サッシ・カーテンウォール・外壁パネルの塗装及びクリーニング、内外装・改修工事等を行っております。

当社は、今後とも、環境問題に配慮し、また高齢化社会に柔軟に対応していくため、需要が高まっているバリアフリーへの対応などの室内リフォーム工事等も更に拡大し、リニューアル事業の発展に貢献したいと考えております。

(沿革)

- 1963年（昭和38年） 川崎市内に社名を川崎サッシ工業(株)として設立。スチールサッシ及びステンレスサッシの製作を始める。資本金500万円
- 1972年（昭和47年） 不二金属工業(株)と合併し、従来の商品に加えアルミサッシの製作も始めるとともに、現在の基礎となる取替サッシの製作、施工を始める
- 1975年（昭和50年） 社名を神奈川不二サッシ(株)に変更
- 1984年（昭和59年） 社名を不二新装(株)に変更し、東京営業所を設置
- 1995年（平成7年） 東京不二ホームサービス(株)と合併、社名を不二サッシリニューアル(株)に変更。資本金2,600万円
- 1997年（平成9年） 不二サッシ(株)改装部と統合
- 2002年（平成14年） 大阪支店を開設
- 2003年（平成15年） 名古屋支店を開設
- 2003年（平成15年） 東京本部を千代田区に移転
- 2007年（平成19年） 千葉、東京西、神奈川の各営業所を開設

●不二サッシグループは環境に優しい商品を提案してまいります。

自然風力換気窓ウインプレス

不二サッシグループでは、地球の温暖化現象等の環境問題について、サッシメーカーとしてCO₂排出量の削減に貢献する、自然環境に優しい商品の開発を企業活動の一環として推進しております。

2007年7月より販売を開始いたしました、「ウインプレス」は、このような取り組みの中から生まれた自然環境配慮型の商品です。

この商品は建物の室内換気を目的としたモーターなどの動力源を必要としない開口窓で、3m/s未満の弱い風が吹いているときは障子が開放状態となり、室内へ風を導き自然換気が可能となります。逆に3m/s以上の風が吹いたときは障子が風のかで閉鎖するため、従来の窓では解決が難しかった強い風の吹き込みによる室内環境の乱れを防ぎます。一年を通して機械空調に頼っていた建物の空調設備に、「風」という自然エネルギーを利用することで「窓」を新たな空調設備のひとつにした次世代型の新商品です。



開放

無風時、風速3m/s未満および負圧時の状態



一時閉鎖

風速3m/s以上の風を受けると閉鎖を開始します。開放寸法が70mm以下になると緩衝ストッパーの機能が働き、窓が勢いよく閉まったときの衝突音を緩和します。



閉鎖

オペレーター操作により、ワイヤーで窓を閉鎖した上ロックレバーが作動し、閉鎖状態を確実に保持します。

省エネ効果

春・秋の中間期および夏季の夜間使用において、空調設備に頼らない自然換気による消費エネルギー量の削減が可能となります。消費エネルギー量の削減によりCO₂排出量の低減と空調設備費のランニングコスト低減に効果を発揮します。

※一般的なオフィスビルに導入した場合、約14%の消費エネルギーの削減効果が期待できます。

一般的なオフィスビルに設置した場合の換気効果イメージ図



●不二サッシグループは非サッシ事業の拡大に努めてまいります。

災害救援 防災多機能倉庫 ストック&トイレ



通常時は防災備蓄倉庫として利用し、災害時には災害救援トイレに素早く転用できる多機能倉庫です。災害救援トイレながら従来のテント式トイレと違って安心・安全に配慮し、高齢者や身障者の方にも使いやすい設計となっています。さらにソーラー発電システムを利用して夜間の照明と安全を確保します。

ユニスペースシリーズ パネルハウスPM



軽量化が実現した事により、マンパワーでの組立が可能となったパネル式ユニットハウスです。今まで重機での揚重、車の進入が出来なくて困っていた場所でも組立・解体作業が可能になりました。あわせて、内外仕上げの充実や連棟が可能でパネルの選択をする事によりお好みの間取りが可能ですので、屋内イベントをはじめ、さまざまな用途にお使いいただけるユニットハウスです。

ユニスペースシリーズ エスボックス SB0x



あらゆるシーンで利用できる小型シャッター倉庫です。

内部スペースを十分確保し、頑丈さ・使いやすさ・安全性を追求しました。お客様のニーズに合わせ、便利にお使い頂ける倉庫です。サイズは1坪と2坪の2サイズ、内壁レスタイプと内壁付タイプがあり、計4種類から選べます。また、入口は便利なシャッターで2重ロックも可能、外壁は錆に強い材料を使用しています。お客様のニーズに合わせ、大事な保管物を守ります。

不二サッシ

株主メモ

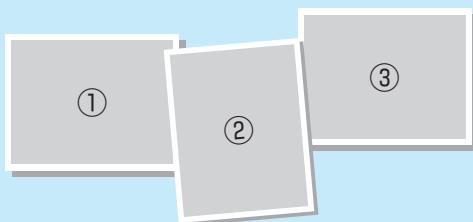
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催
期末配当基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
その他の基準日	上記の他、必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所 (郵送物送付先) (お問合せ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL. 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL http://www.fujisash.co.jp/

ホームページをご利用ください。



ホームページアドレス <http://www.fujisash.co.jp/>

●表紙写真説明



①富士市交流プラザ

所在地：静岡県富士市富士町

設計：(株)日総建

施工：石井組・望月建設 特定建設工事共同企業体

②ホテルレオパレス博多

所在地：福岡県福岡市博多区

設計：(株)日建設計

施工：三井住友建設(株)

③日暮里・舎人ライナー 日暮里駅

所在地：東京都荒川区

設計：(株)トーニチコンサルタント

施工：大豊・新協 建設共同企業体

不二サッシ株式会社

〒212-0058

神奈川県川崎市幸区鹿島田890番地12 Tel. (044) 520-0034